

イノベーション創出  
に資する施設整備

学生の修学支援  
に資する施設整備

グローバル化に  
対応した施設整備

その他

## 学生寮(清明寮)の混住化整備



新築建物外観①

### 基本情報

大学名：大阪大学  
 建物名：清明寮  
 工期：平成24年9月～平成25年3月  
 構造・階数：RC・地上4階（既存）  
                   S・地上1階（増築）  
 延床面積：4,085㎡  
                   （改修面積 3,935㎡）  
                   （増築面積 150㎡）  
 事業費（設計費含む）：167,726千円



新築建物外観②

### ○留学生受け入れに向けた住環境整備

・本学は22世紀において学術・研究がひとときわ輝き、世界屈指の総合大学となることを目指した「大阪大学未来戦略（2012-2015）」を掲げており、その中で留学生数を倍増させたグローバルキャンパスを目指し、留学生受け入れに向けた住環境整備を実施している。

・補助金による既存学生寮の耐震補強と合わせて、本学として初めて留学生と日本人学生の混住化対策事業として、既存棟の改修及びラウンジ棟の新築を自己資金により実施した。



グローバルビレッジ構想全体イメージ

## 計画・設計上のポイント

### ○教育研究空間の最適化

#### <既存棟改修>

- ・留学生の生活習慣へ対応のため、既存のトイレを和式から洋式に改修した。
- ・衛生面から補食室、洗濯機置き場の内装改修工事等を合わせて実施した。

#### <新築>

- ・既存の学生寮には学生の集うスペースが無かったため、留学生と日本人学生が集い、自然に交流が生まれることを意図して、新たにラウンジ棟を新築し、コミュニケーション・ラウンジ（約90㎡）設置した。
- ・既存棟には大浴場しかなく、留学生の生活習慣へ対応のため、新築したラウンジ棟内に個室シャワールーム（7室）を設置した。

### ○施設水準の向上

- ・省エネルギー推進のため、人感センサーを有する照明等を採用した。
- ・新築したラウンジ棟には、ペアガラスを採用した。

### ○設計プロセス・推進体制

- ・学生寮管理を担当するハウジング課と綿密な打合せを行い、設計を進めた。

既存棟改修

Before



改修前の和式トイレ

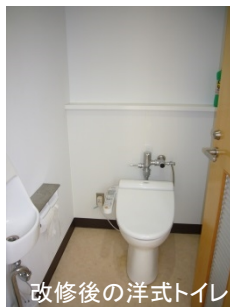


改修前の補食室



改修前の洗濯機置き場

After



改修後の洋式トイレ



改修後の補食室



改修後の洗濯機置き場

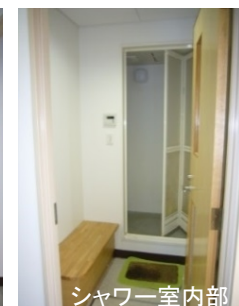
新築



コミュニケーション・ラウンジ



シャワー室7室



シャワー室内部

## 【日本人学生寮の混住化計画について】

### ◆整備方針

- ・平成25年度に制定した大阪大学未来戦略では、総長のリーダーシップの下、地球規模での多様な人材により構成されるグローバルキャンパスの早期実現を目指している。
- ・現在、本学では留学生寮が不足しており、その不足分を解消するため、既存の日本人学生寮3寮（494戸）において、各学生寮の約37%、合計184戸に留学生を入居させ、日本人学生との混住寮とすることとした。
- ・本事業は、上記の日本人学生寮の混住化計画の一環であり、日本人学生を含む多国籍の学生間における交流機会の創出により国際化を推進し、国際的なリーダーとなるようなグローバルな人材の育成を図ることを目的とする。

### ◆既存学生寮の課題

- ・留学生は和式トイレ等に慣れておらず、洋式トイレへの改修が必要である。
- ・通常、入居者がエアコン等を設置するが、入居期間が1年間と短い留学生の費用負担の軽減のため、大学がエアコン等を備え付ける必要がある。
- ・施設が老朽化している。
- ・文化・宗教上の問題等があり、浴室（大浴場）の使用は留学生にとって困難であるため、個別利用ができるシャワー等の設置の必要がある。
- ・学生が集い・交流するスペースがない。

### ◆混住化整備イメージ

#### 共用施設の整備



補食室の整備（イメージ）

#### 外国人の生活習慣への対応

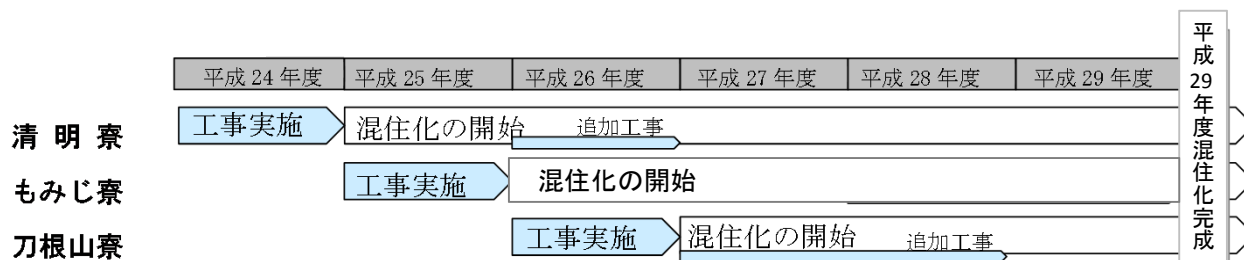


洋式便所への改修（イメージ）



シャワー室の整備（イメージ）

## ◆混住化年次計画



## 施設整備の効果

### ○施設・設備について

- ・既存施設の改修により留学生に快適な生活を提供することができるようになった。平成27年度現在、172名の留学生が入居可能となっており、混住化が推進されている。
- ・清明寮に新規整備したコミュニケーション・ラウンジは日本人学生・留学生ともに利用するシャワー室に隣接しているため、日常的な交流活動の活性化に貢献している。

### ○運営について

- ・留学生の入居人数が0人から31人となり、入居者の約20%が留学生となった。混住により、積極的な交流がなされており、日本人学生の語学力の向上および国際感覚が強化されている。また、留学生は早期に日本社会に順応できている。
- ・日常的な挨拶や些細なトラブル解決等を通じて、文化の違いを理解する機会となっている。

### ○今後の課題について

- ・留学生は客観的な目で寮・日本人学生をとらえており、そこから上がってくる意見等を参考に、混住寮の運営・整備に反映させていく必要がある。
- ・掲示物等の多言語表記が不完全であり、今後対応予定。
- ・混住化を完了しても留学生寮の必要戸数には達しておらず、今後整備する予定の「グローバルビレッジ」第Ⅰ期事業においても、混住型の学生寮を整備する予定である。混住化した日本人学生寮で新たに見つかった課題等については、この事業計画にも役立っているところである。